

北海道博物館

平成 2 7 年度 事業実績

平成 2 8 年 4 月

目 次

1	資料の収集・保存	
(1)	資料の収集	1
(2)	収蔵機能の強化	1
(3)	資料保存環境の維持	1
(4)	収蔵資料の利用への対応	1
2	展示	
(1)	総合展示室の運営	1
(2)	企画展示の開催	2
3	調査研究	
(1)	調査研究の推進	2
(2)	アイヌ文化に関わる調査研究の重点化	3
4	北海道開拓の村の整備	4
5	教育普及事業	
(1)	魅力あるイベントの充実	4
(2)	教材の充実	5
(3)	はっけん広場の運営	5
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	6
7	道民参加型組織の整備	6
8	施設及び周辺環境の整備	
(1)	館内施設の整備と活用	6
(2)	周辺環境の整備	6
(3)	野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	7
9	広報	
(1)	広報活動の強化	6
(2)	赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携	7
10	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	7
11	博物館ネットワーク	
(1)	各種博物館団体との連携	8
(2)	博物館交流の促進	8
12	情報発信	
(1)	アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信	9
(2)	ICTなどを活用した情報発信機能の強化	9
(3)	道民の「知りたい」気持ちへの支援	9
13	人材育成機能の強化	
(1)	博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	9
(2)	外来研究員の受入	10
(3)	派遣研修	10
14	研究成果の発信と社会貢献	
(1)	学術刊行物などの刊行	10
(2)	学会への発信	11
(3)	職員の対外貢献	11
(4)	外部機関との事業連携	11
(5)	道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献	11
15	ガバナンス体制の育成	12

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- ・ 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。
- ・ 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録する。
- ・ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。

受入資料点数	197 件
資料審査会の実施回数	5 回

(2) 収蔵機能の強化

- ・ 収蔵資料データベースのシステム更新を実施し、旧開拓記念館及び旧アイヌ民族文化研究センターの情報システムを一元化する作業を進める。
- ・ 災害発生時における被災資料の受入れや保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。
- ・ 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。

一元化後の資料登録件数	180,599 件
-------------	-----------

(3) 資料保存環境の維持

- ・ 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数		10 回
IPM に関わる作業の実施回数		296 回
IPM 関連の作業	①捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査）	約 100 カ所×年 12 回の調査を実施
	②収蔵庫内の微生物汚染を確認するため落下菌調査	1 回実施
	③特別展示室と収蔵庫の空気質調査	3 回実施
	④基盤Gと保存担当者による収蔵庫清掃	10 回実施
	⑤全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除	1 回実施
	⑥新展示ケースなどのからし作業	恒常的に 実施
	⑦収蔵庫搬入前の資料について二酸化炭素殺虫処理（殺虫バッグ）	11 回実施
	⑧収蔵庫内巡回（ロガー目視と害虫の除去）	258 回

(4) 収蔵資料の利用への対応

- ・ 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。

2 展示

(1) 総合展示室の運営

- ・ 総合展示の定期的な入替えを実施する。
- ・ 総合展示や施設の概要を紹介する日本語版及び英語版のガイドブックを作成する。
- ・ 障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。
- ・ 総合展示のメンテナンスに努める。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	H27 目標値	H27 実績
総合展示室利用者数	72,400 人	149,046 人
うち外国人利用者数	3,800 人	2,770 人

クローズアップ展示 入れ替え	16 件
(内訳)	
クローズアップ展示①（1テーマ）	3 回
クローズアップ展示②（1テーマ）	6 回
クローズアップ展示③（2テーマ）	1 回
クローズアップ展示④（2テーマ）	1 回
クローズアップ展示⑤（3テーマ）	1 回
クローズアップ展示⑥（4テーマ）	3 回
クローズアップ展示⑦（5テーマ）	1 回

(2) 企画展示の開催

- ・ 民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。
- ・ 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。
- ・ 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値	実績
特別展示室利用者数	57,600 人	104,441 人

特別展示室利用者数内訳

展示会名称	期間	実績
夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界	平成 27 年 9 月 5 日～11 月 8 日	51,046 人
学芸員 おすすめの 1 点 ようこそ北海道 博物館へ	平成 27 年 4 月 18 日～6 月 7 日	23,889 人
鶴	平成 27 年 6 月 27 日～8 月 16 日	15,091 人
北海道のアンモナイトとその魅力	平成 27 年 11 月 28 日～平成 28 年 1 月 17 日	6,071 人
Across Borders : 石川直樹写真展	同上	4,390 人
神様おねがい！ 地域と人をむすぶ祈りの かたち	平成 28 年 2 月 27 日～4 月 10 日	5,324 人

道民参加型展示	アンモナイト化石の展示（試験的に実施）
展示ワーキングチーム会議	8 回

3 調査研究

(1) 調査研究の推進

- ・ 北海道の自然・歴史・文化について、新たな基礎的及び学際的な調査研究プロジェクトを立ち上げ、調査を実施する。
- ・ 道民が調査協力員などの形で調査研究に参加できる体制を構築し、その運営を軌道に乗せる。
- ・ 道民の自主的な研究活動や研究発表の場の整備について検討を進める。

- ・ サハリン州郷土博物館との5年間の共同研究事業についての覚書に調印し、交流を深めるとともに共同研究を推進する。
- ・ ロイヤル・アルバータ博物館との友好関係を深め、共同研究事業についての覚書に調印する。
- ・ 外部講師の招へいも含めた館内研修会の開催などにより、職員の研究資質の向上を図る。

「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト（5課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 野幌森林公園の生物インベントリー調査（自然研究 G） ・ 北海道における漂着鯨類についての基礎的情報の集積と活用（自然研究 G） ・ 地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用（歴史研究 G） ・ 戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査（生活文化研究 G） ・ 北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査（博物館研究 G）

「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト（4課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・ モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史（生活文化研究 G） ・ 石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元（自然研究 G） ・ 北方四島の考古学的研究（歴史研究 G） ・ 北海道におけるツルの自然史と文化史

「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクト（2課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道とサハリン 共通性と特性（ロシア・サハリン州） ・ 寒冷地の自然と適応ー博物館交流で育む亜寒帯地域の学際的研究ー（カナダ・アルバータ州）

科学研究費補助金による研究課題（14課題）				
新規	基盤研究(B)一般	平成 27～30 年度	小氷河期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響	添田雄二
継続	基盤研究(C)一般	平成 24～27 年度	明治期北海道におけるアイヌ民族の土地所有と利用に関する研究	山田伸一
継続	基盤研究(C)一般	平成 24～28 年度	北海道におけるアイヌ文化成立期以前の建築活動に関する基礎的研究	小林孝二
継続	基盤研究(C)一般	平成 25～27 年度	アムール川下流域で生産された装飾品及び外来交易品の周辺諸民族への波及に関する研究	東俊佑
継続	基盤研究(C)一般	平成 25～28 年度	北海道内に所在する北海道外関係の近世武家文書に関する基礎的研究	三浦泰之
継続	基盤研究(C)一般	平成 25～28 年度	古代日本列島北部地域における文化集団の移動に関する基礎研究	鈴木琢也
継続	基盤研究(C)一般	平成 25～29 年度	西廻り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民族学的研究	舟山直治
継続	基盤研究(C)一般	平成 26～28 年度	アイヌ民族資料の X 線 CT による現況調査及び長期保存方針の策定に関する基礎的研究	杉山智昭
継続	基盤研究(C)一般	平成 26～28 年度	シュミット線とサハリン先住民の植物資源：環境の多様性から見た文化の地域的多様性	水島未記
新規	基盤研究(C)一般	平成 27～29 年度	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発	青柳かつら
継続	若手研究(B)	平成 26～28 年度	海岸漂着物を用いた環境教育と博物館でのアウトリーチ活動	圓谷昂史
新規	若手研究(B)	平成 27～29 年度	「アイヌ絵」の成立展開についての基礎的研究	山際晶子
新規	スタート支援	平成 27～28 年度	北海道各地におけるアイヌ音楽の伝承曲目及び伝承状況に関する調査研究	甲地利恵
新規	スタート支援	平成 27～28 年度	アイヌ英雄叙事詩における伝承の流動性に関する研究	遠藤志保

館内定例研究報告会	6回
-----------	----

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

- ・ 総合博物館としての役割・視点をふまえたアイヌ文化に関わる調査研究課題を設定し、実施する。
- ・ アイヌ文化の継承・振興に資する学際的共同研究課題を策定し、道内外の関係機関や研究者とも連携した効果的な実施計画を定める。
- ・ 調査研究の成果を活用した企画展示並びに巡回展を開催する。

「アイヌ民族文化に関する調査研究」プロジェクト（6課題）	
①	北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査
②	アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究
③	道内各地に伝承されるアイヌ音楽のレパートリー及び伝承状況に関する調査研究
④	アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究（渡島・檜山地方）と「北海道内地域発行新聞アイヌ史関係記事データベース」の構築
⑤	カムイとアイヌの相互交渉に関する調査研究
⑥	アイヌ文化資料の内容分析（寄贈資料等）

4 北海道開拓の村の整備

- ・ 老朽化が進んでいる歴史的建造物の補修工事を実施する。
- ・ 旧北海中学校など、建造物内の展示の充実に取り組む。

建造物補修工事	旧広瀬写真館補修工事（第1期；平成27年）
---------	-----------------------

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

- ・ 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。
- ・ 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。
- ・ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる講座・講演会を実施する。
- ・ 「グループプレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。
- ・ 「ミュージアムフェスティバル」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値	実績
イベント参加者数	3,200 人	8,495 人

(イベント参加者数 内訳)			
ちゃれんがワークショップ	774 人	ハンズオン	52 人
ちゃれんが子どもクラブ	202 人	ミュージアムトーク	272 人
講座・講演会	1,588 人	ハイライトツアー	1,706 人
特別イベント	1,057 人	ちゃれんがラリー	433 人
赤れんが講座	298 人	はっけんイベント	2,113 人

グループレクチャー		
(内訳)	実施件数	254 件
	参加人数	9,365 人
メニュー別実施回数		
(内訳)	総合展示みどころ	186 回
	第1テーマ	2 回
	第2テーマ	28 回
	第3テーマ	1 回
	第4テーマ	1 回
	第5テーマ	4 回
	その他	32 回

はっけんプログラム		
	実施件数	134 件
	クラス数	243 クラス
	参加人数	7,216 人
プログラム別実施回数		
(内訳)	①クマってこわい？ ヒグマについてもっと知ろう	22 回
	②アンモナイトで発見！	4 回
	③やってみよう アイヌ文化	114 回
	④縄文文化のくらい	62 回
	⑤くらべてみよう！ ーくらしの道具 いまむかしー	41 回

(2) 教材の充実

- ・ 「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発についての取組を進める。
- ・ 来館者が総合展示の内容について理解を深めることができるように、多言語に対応した音声解説サービスを実施する。また、その充実についての取組を進める。
- ・ 総合展示や施設の概要を紹介する日本語版及び英語版のガイドブックを作成する。

教材の充実	
	①北海道博物館ガイドブック発行 ②ビジュアル北海道博物館発行 ③他言語解説「ポケット学芸員」運用準備（運用開始は平成 28 年度から）

(3) はっけん広場の運営

- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。
- ・ はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。

- ・ 子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。
- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を進める。
- ・ 学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施する。

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値	実 績
はっけん広場利用者数	20,000 人	34,561 人

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ・ 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- ・ より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。

7 道民参加型組織の整備

- ・ 道民参加の促進に向け、ボランティア組織や博物館を支援する組織の創設に取り組むとともに、道民の自主的なサークル活動の支援を行う。

8 施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

- ・ 休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備の充実に向けた取組を進める。
- ・ オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。
- ・ 記念ホール、講堂、グランドホールなどの一層の活用に向けた取組を進める。

オリジナルグッズ販売数	11 件
-------------	------

野幌森林公園の管理運営にかかる連絡会議の実施件数	5 件
一体的に実施した広報の件数	10 件

施設利用（記念ホール）		
北海道の博物館まつり	主催	北のミュージアム活性化実行委員会
	開催日	平成 27 年 7 月 11 日
地方版クールジャパン推進会議	主催	内閣官房
	開催日	平成 27 年 8 月 29 日
アイヌ音楽ライブ	主催	北海道博物館
	開催日	平成 27 年 11 月 3 日
北海道・アルバータ州姉妹提携 35 周年記念 石川直樹写真展オープニングセレモニー	主催	北海道、カナダ・アルバータ州政府在日事務所
	開催日	平成 27 年 11 月 27 日

(2) 周辺環境の整備

- ・ 公共交通機関でのアクセス向上に向けた取組を進める。
- ・ トータルデザインに基づいた野幌森林公園内のサインの統一化に努める。

- 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた検討を進める。

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

- ホームページの運営など一体的な広報活動などをはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。

9 広報

(1) 広報活動の強化

- あらゆる媒体を活用した広報活動を展開する。
- 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークの道民への浸透を図り、積極的に広報媒体やサインなどに活用する。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容				目 標 値		実 績	
ホームページのアクセス数（トップページ）				79,000 件		270,758 件	
4 月	33,846	8 月	22,660	12 月	13,169		
5 月	31,678	9 月	31,512	1 月	14,184		
6 月	18,893	10 月	35,733	2 月	10,284		
7 月	22,082	11 月	24,209	3 月	12,508		

広報媒体件数	新聞	67 件
	雑誌	84 件
	テレビ	43 件
	ラジオ	19 件

ロゴマークの活用	新聞	10 件
	雑誌	1 件
	外部機関のチラシ	2 件

PR 映像	プロモーション映像 (キャプションは 5 カ国語対応)
-------	--------------------------------

森のちゃれんがニュースの発行	3 回
行事あんない 2015 年度後期の発行	1 回

(2) 赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

- 「北海道博物館赤れんがサテライト」の展示を誘導力のある展示に改修するとともに、道内博物館の情報も含めた情報発信機能の強化に積極的に取り組む。
- 「サイエンスパーク」や「かるちやる net」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者 と直に接する広報活動を展開する。

赤れんがサテライト利用者数	610,219 人
---------------	-----------

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ・ 自己点検評価の実施に向け、評価方法などの検討を進める。
- ・ 利用者からの意見・評価を幅広く集め館運営の改善に活かすため、アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施する。
- ・ 博物館協議会による外部評価の実施に向けた取組を進める。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値	実 績
利用者満足度	70 パーセント	平均 85.3%

展示会	満足度	満足度調査の内訳				
		たいへん満足	満足	不満足	たいへん不満	
総合展示	H27.4.18-5.31	86.6%	126	114	25	12
	H28.2.27-4.10	95.0%	23	34	2	1
夷曾列像	81.2%	493	676	209	61	
鶴	96.1%	139	108	4	6	
Across Borders	97.3%	54	53	2	1	
北海道のアンモナイト	88.9%	24	40	6	2	
神様お願い！	91.6%	20	56	5	2	
平均 85.3%						

1 1 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

- ・ 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- ・ 北海道博物館協会との連携により、中核的博物館として地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。

(2) 博物館交流の促進

- ・ 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。
- ・ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。
- ・ 道内の教育委員会や学校と連携した出前博物館を実施する。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値	実 績
道内市町村等との連携・協力件数	40 件	38 件
図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数	16 件	

事業名	主催団体	期間	種別
「地質の日」展示「札幌の過去に見る洪水・土砂災害」	「地質の日」展示実行委員会	4月28日-5月31日	共催
「北海道博物館収蔵品—Photoする写真展」	為岡進氏	5月15日-5月31日	共催
「文化財講演会」	北海道文化財保護協会	6月6日	共催
「第11回夏こそ！雪プロセミナーin北海道」	北海道「雪」プロジェクト	7月25日	共催

集中講義・公開講演会「メディアリテラシーを育む」	総合研究大学院大学	7月26日	共催
「道新ぶんぶんクラブ 特別鑑賞会」	北海道新聞社事業センター	9月11日, 9月30日	共催
ジオ・フェスティバル in Sapporo 2015 への出展	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2015 実行委員会	10月3日	出展
厚真シンポジウム「遺跡が語るアイヌ文化の成立-11~14世紀の北海道と本州島-」	厚真シンポジウム実行委員会	10月9日-10月11日	後援
平取町二風谷アイヌ文化博物館第21回特別展「アイヌ民俗資料を解き明かす科学の力」	平取町二風谷アイヌ文化博物館	10月15日-12月15日	共催
NHK 歴史セミナー「絵が語られるふるさと 北海道の歴史~夷酋列像が描かれるまで~」	NHK 札幌放送局	10月17日-10月18日	共催
第30回日本植生史学会大会	日本植生史学会	11月6日-11月7日	共催
「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」によるワークショップ事業	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会	12月4日	共催
平成27年度全日本博物館学会第3回博物館教育研究会	全日本博物館学会	2月20日	共催
北海道ジオパークパネル展 in 札幌の共催	空知総合振興局、ほか	2月24日-2月27日	共催
北海道自然史研究会 2015年度大会	北海道自然史研究会	2月28日	共催
「クマガラエ調査&クマガラフォーラム」	野幌森林公園を守る会	3月12日	共催

1.2 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信

- ・ アイヌ文化に関わる文献情報、アイヌ語及び口承文芸に関する情報、民具や伝統的生産技術に関する情報、北海道博物館所蔵の民具並びに道内市町村に所在する民具に関する情報など、ニーズの高い情報についてデータベース化に着手する。
- ・ これらの情報については、随時、ホームページなどを活用して発信する。

(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化

- ・ 北海道博物館及び道内博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータを整備し、ICTを活用した、関係機関とのより効果的なネットワークの構築に向けた取組を進める。
- ・ 多様な媒体による北海道博物館及び道内博物館の諸情報の発信に向けた取組を進める。

(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

- ・ 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物などを収集し、図書室の充実を図る。
- ・ 閲覧・複写などの各種サービスを充実させる取組を進める。
- ・ 道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援を行う。

来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値	実績
写真の提供件数	100件	132件
レファレンス件数	800件	
アンケート、その他の利用件数	100件	12件

図書室の利用者数	8,317 人
図書室のレファレンス	216 件

1 3 人材育成機能の強化

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

- ・ 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れる。
- ・ 大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラム構築に向けた取組を進める。
- ・ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

博物館実習の受入	館務実習	受入件数	1 件
		参加人数	10 人
	見学実習	受入件数	8 件
		参加人数	111 人
インターンシップの受入	件数	5 件	
	参加人数	23 人	
博物館学系研修会や技術研修会への参加件数		6 件	

(2) 外来研究員の受入

- ・ 外部研究者や大学院生などを受け入れるための体制構築に向けた取組を進める。

(3) 派遣研修

- ・ 外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させる。

1 4 研究成果の発信と社会貢献

(1) 学術刊行物などの刊行

- ・ 『北海道博物館研究紀要』及び『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』を刊行する。
- ・ 大規模な企画展示の開催に合わせて展示図録を刊行する。
- ・ 小規模な企画展示の開催に合わせて解説用冊子を刊行する。

『北海道博物館研究紀要』 第1号	
執筆者	タイトル
鈴木琢也	擦文文化の成立過程と秋田城交易
杉山智昭	津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価 —糸状菌の活動抑制に対する効果的運用について—
圓谷昂史・栗原憲一ほか	北海道北広島市西の里から産出した貝化石（速報）
堀繁久・水島未記	野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとトノサマガエルの侵入および分布拡大経過について
右代啓視・鈴木琢也ほか	千島列島における人類活動史の考古学的研究 (I) —特に北方四島の先史文化研究を中心に—
舟山直治・村上孝一	加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承
青柳かつら	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発—2015年北海道と2003年全国の博物館園対象高齢者プログラムアンケート調査結果の比較から—
池田貴夫ほか	世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト「モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史」研究報告—

杉山智昭ほか	アイヌ民族文化財の X 線 CT による現況調査(II)
添田雄二ほか	小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響 I
田村雅史・出利葉浩司	北海道博物館における言語展示への試み（報告）－総合展示第 2 テーマに設置した「アイヌ語ブロック」を中心に－
会田理人	『樺太日日新聞』掲載コンプ関係記事－目録と紹介（1923-29 年）－

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』 第 1 号	
執筆者	タイトル
直川礼緒	日本の博物館収蔵の樺太（サハリン）アイヌの金属製口琴
大坂 拓	アイヌの儀礼用冠について －北海道大学植物園・博物館所蔵資料の検討－
遠藤志保	アイヌ口承文学に見られる表現 omommomo に関する一考察 －沙流地方の英雄叙事詩を中心に－
大谷 洋一	アイヌ口承文芸「散文説話」 －河童に助けられた男の物語－
大坂 拓	北海道乙部町伝世の木綿衣ほか －平成 27 年度新収蔵資料の紹介－
アイヌ文献目録編集会（小川正人・黒井茂）	アイヌ文献目録 2000～2009（その 2）〈雑誌・逐次刊行物編〉

特別展図録、企画テーマ展パンフレットの発行	
図録	開館記念特別展 『夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界』
パンフレット	第 2 回企画テーマ展 『鶴』
	第 3 回企画テーマ展 『北海道のアンモナイトとその魅力』
	第 4 回企画テーマ展 『神様おねがい！ 地域と人をむすぶ祈りのかたち』

(2) 学会への発信

- ・ 北海道博物館の研究成果を各種学会で発表し、学術雑誌へ投稿する。

(3) 職員の対外貢献

- ・ 講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。

(4) 外部機関との事業連携

- ・ 民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- ・ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。
- ・ 道の総合計画「ほっかいどう未来創造プラン」などとリンクした研究を推進する。
- ・ 多民族・多文化共生社会、人と自然との調和のとれた社会のあり方などについてのビジョンを提言していくための取組を進める。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値	実 績
新聞・報道対応の件数	計 180 件	128 件
学会発表の件数		43 件
学術雑誌等への寄稿の件数		32 件
招待講演の件数		68 件
各種委員・共同研究員等委嘱の件数		38 件
その他の件数		9 件
		合計 318 件

1 5 ガバナンス体制の育成

内部視察	対応件数	94 件
	視察来館者数	1,230 人

1 6 平成 27 年度アイヌ民族文化研究センター事業実施報告

(1) 展示事業

1) 総合展示

総合展示の展示品の入替え件数	3	(3)	件
クローズアップ展示の件数	2	(2)	件
「アイヌ文化Q&A」の入替え件数	0	(0)	件

※丸括弧は H27 年度北海道博物館事業実績報告書 (H28.1 月時点) に掲載した数値

2) 企画展等

平成 27 年度は未実施であったが、次年度以降の企画テーマ展、蔵出展の計画を具体化した。

3) 巡回展

平成 27 年度は未実施であったが、H28 年度の巡回展 (枝幸、美幌) の開催を具体化した。

(2) 調査研究事業

1) アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト

「言語・口承文芸」「芸能」「民具・伝統的生活技術」「歴史」の 4 つの視点から、アイヌ文化に関する基礎的な資料・情報の調査・収集とその整理を行い、学習・教育・伝承活動ならびに今後の研究に向けた基礎的条件の整備を進める。

《個別課題と主担当者》

- ・「北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査」H26～29 (田村)
- ・「アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究」H24～28 (大谷)
- ・「道内各地に伝承されるアイヌ音楽のレパートリー及び伝承状況に関する調査研究」H22～28 (甲地)
- ・「道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部」H28～31 (大坂、出利葉)

2) アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト

「言語・口承文芸」「芸能」「民具・伝統的生活技術」「歴史」の 4 つの領域をもとに、アイヌ文化に関する分野横断的な調査研究や他研究グループとの連携を含めた調査研究、収集資料の整理・分析研究とその成果提供等を行い、アイヌ文化の学習・教育・伝承活動ならびに今後の研究展開に資する研究成果の蓄積を進める。

《個別課題と主担当者》

- ・「アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究」H28～31 (遠藤)
- ・「近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究」H28～31 (出利葉、大坂、小川)
- ・「教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代」H28～31 (小川)
- ・「アイヌ文化資料の内容分析 (寄贈資料等)」H26～31 (※全員)

3) 海外博物館等との共同研究プロジェクト

- ・共同研究プロジェクト「北海道とサハリン 共通性と特性」(ロシア・サハリン州)
担当: 小川 (全体のプロジェクトリーダー)、大谷、遠藤、大坂、出利葉)
- ・共同研究プロジェクト「寒冷地の自然と適応 - 博物館交流で育む亜寒帯地域の学術的研究

一」(カナダ・アルバータ州)担当:甲地、田村

4) 科研費等

新規	スタート支援	平成 27~28 年度	北海道各地におけるアイヌ音楽の伝承曲目及び伝承状況に関する調査研究	甲地利恵
新規	スタート支援	平成 27~28 年度	アイヌ英雄叙事詩における伝承の流動性に関する研究	遠藤志保

(3) 資料・情報の収集・整備事業

収集・整備のための調査の実施件数	5	(4)	件
収集した資料の件数	1	(1)	件

※丸括弧は H27 年度北海道博物館事業実績報告書 (H28.1 月時点) に掲載した数値

(4) 資料・情報等の公開・提供事業

1) 資料の公開

公開した資料件数	5	(5)	件	
目録の刊行件数	0	(0)	件	
資料閲覧件数	全体	16	(14)	件
	文章	0	(0)	件
	音声・映像	1	(1)	件
	民具	15	(13)	件

※丸括弧は H27 年度北海道博物館事業実績報告書 (H28.1 月時点) に掲載した数値

2) 情報発信

(1) 学術情報の集約

旧道立アイヌ民族文化研究センターの情報システムを北海道博物館の情報システムに統合 (H27 年 11 月実施) に伴うシステムの移行など、統合に伴う作業と今後事業を展開するための予備的な作業に留まった。

(2) 発信基盤の整備

ホームページ更新回数	2	(2)	回
ホームページのアクセス件数	7,000	(7,000)	件

※丸括弧は H27 年度北海道博物館事業実績報告書 (H28.1 月時点) に掲載した数値

(3) 学習・伝承活動への支援

図書室におけるレファレンス件数		(64)	件
他機関、団体への学習・伝承支援件数	2	(2)	件

※丸括弧は H27 年度北海道博物館事業実績報告書 (H28.1 月時点) に掲載した数値

(5) 成果の普及事業

1) 教育普及

グループレクチャーの実施件数					
	全	体	254	(256)	件
	アイヌ	関連	32	(36)	件
はっけんプログラムの実施回数					
	全	体	243	(242)	回
	アイヌ	関連	114	(39)	回

※丸括弧は H27 年度北海道博物館事業実績報告書（H28.1 月時点）に掲載した数値であるが、数値の大きなずれは年度末に再度数値を点検したことによる。

上記以外に行った館内イベント	1	(1)	件
----------------	---	-----	---

※丸括弧は H27 年度北海道博物館事業実績報告書（H28.1 月時点）に掲載した数値

講座・講演会等の実施

①ちゃれんがワークショップ

- ・「アイヌ語“解説”講座」（講堂）

日 時 10月3日(土) 10:00～12:00

参加者 11名

担当 田村雅史・大谷洋一

②ちゃれんが子どもクラブ

- ・「植物のせんいで、糸を作ろう！編んでみよう！どんなものができるかな？」（講堂）

日 時 8月15日(土) 10:00～12:00

参加者 12名

担当 大坂拓・出利葉浩司

- ・冬休みスペシャル③「アイヌ語であそぼう！」（講堂）

日 時 1月16日(土) 10:00～12:00

参加者 4名

担当 田村雅史・大谷洋一

③ちゃれんがリレー講座

- ・「北海道・北東アジアの自然とくらし① 樺太アイヌの『畏』を徹底的に解剖しよう」（講堂）

日 時 1月30日(土) 13:30～15:00

参加者 46名

担当 出利葉浩司

2) 研究成果の提供

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』 第1号	
執筆者	タイトル
直川 礼緒	日本の博物館収蔵の樺太（サハリン）アイヌの金属製口琴
大坂 拓	アイヌの儀礼用冠について －北海道大学植物園・博物館所蔵資料の検討－
遠藤 志保	アイヌ口承文学に見られる表現 omommomo に関する一考察 －沙流地方の英雄叙事詩を中心に－
大谷 洋一	アイヌ口承文芸「散文説話」 －河童に助けられた男の物語－
大坂 拓	北海道乙部町伝世の木綿衣ほか －平成27年度新収蔵資料の紹介－
アイヌ文献目録編集会 (小川 正人・黒井 茂)	アイヌ文献目録 2000～2009 (その2) 〈雑誌・逐次刊行物編〉

『北海道博物館研究紀要』 第1号	
田村 雅史・出利葉 浩司	北海道博物館における言語展示への試み（報告） －総合展示第2テーマに設置した「アイヌ語ブロック」を中心に－

「ちゃれんがニュース」の記事数	4	(4)	件
他機関の機関紙等での記事掲載数	9	(3)	件
道内市町村等との連携・協力件数	0	(0)	件
新聞・報道対応件数	5	(5)	件
講演依頼件数	16	(13)	件
各種委員への就任件数	15	(15)	件

※丸括弧は H27 年度北海道博物館事業実績報告書（H28.1 月時点）に掲載した数値

(6) その他

1) 道によるアイヌ文化普及啓発事業への協力・支援

- ・北海道メールマガジン（広報公聴課）で連載

北海道メールマガジン「Do.Ryoku（動く・力）」のコラム（年間13回）

※上記の表の「新聞・報道対応件数」でカウント

- ・北海道ふるさと教育・観光教育推進事業（教育庁義務教育課）への協力

アイヌ文化学習の資材提供（アイヌ文化紹介小冊子等）

アイヌ語地名学習パネルデータの提供（事業参加校において掲示）

2) 国によるアイヌ文化普及啓発事業への協力・支援

- ・「平成27年度危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会」への職員派遣（2回）
- ・「平成27年度アイヌ語のアーカイブ作成支援事業」審査委員会並びに「平成27年度アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化事業（アナログ音声資料のデジタル化）」に係る審査委員会への職員派遣

※これらは上記の表の「各種委員への就任件数」でカウント

3) 共同研究参加

- 国立国語研究所「日本列島と周辺諸言語の比較歴史的研究」（参加職員：遠藤志保）
- 国文学研究資料館「民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究」（参加職員：小川正人）
- 国立民族学博物館「明治から終戦までの北海道・樺太・千島における人類学・民族学研究と収集活動」（参加職員：小川正人）